

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

ア 委員：9人

医師2人（腫瘍内科）

校長3人（小、中、高）

県がん総合相談支援センター1人

県学校保健会1人

県厚生部健康課課長

（がん対策推進担当）1人

県教育委員会保健体育課指導主事1人

イ 事務局：2人

県教育委員会保健体育課2人

2. 開催時期、検討内容

第1回がん教育に関する協議会（R6.9）

- ・事業実施計画
- ・具体的内容について検討

第2回がん教育に関する協議会（R7.1）

- ・事業実施報告
- ・今後の取組について検討

② 教育委員会としての取組

- がん教育に関する協議会の開催
- 「外部講師を活用したがん教育」出前授業実施校の募集
- 「外部講師を活用したがん教育」出前授業実施校の決定
- 「外部講師を活用したがん教育」出前授業実施校への講師の派遣調整
と事前打合せ（出前授業実施校・外部講師）の日程調整
- 「外部講師を活用したがん教育」出前授業の実施（R6.9～R6.12）
・小学校9校、中学校7校、県立高等学校4校
- がん教育関連書籍の配付（がん出前授業実施校）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

がん教育出前授業・外部講師を活用したがん教育の講師派遣にあたっては、講師派遣依頼の窓口を教育委員会とした。教育委員会が、関係機関（県健康対策室、県がん総合相談支援センター）に相談・依頼し、関係機関と連携して外部講師（がんピアサポーター）の発掘、派遣調整を行った。

富山県がん教育に関する協議会委員

	所属及び役職
1	富山県医師会理事
2	富山大学医学部内科教授
3	富山県高等学校長協会代表
4	富山県中学校長会代表
5	富山県小学校長会代表
6	富山県がん総合相談支援センター統括相談員
7	富山県学校保健会事務局長
8	富山県厚生部健康対策室健康課課長（がん対策推進担当）
9	富山県教育委員会保健体育課指導主事（養護教諭）
	事務局：富山県教育委員会保健体育課

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業（抜粋）

富山県立富山総合支援学校（特別支援学校）第2学年

- 実施科目 特別活動・学級活動
- 実施日 令和6年9月5日（木）
- 授業時数 1時間（本時1／1）
- 授業内容 がんの発見から治療までの経緯や現在の状況等、外部講師の体験談を聞き、自他の健康や命の大切さについて考えた。健康や命の大切さについてグループトークを行い、友達と考えを共有した。

高岡市立中田中学校（中学校）第2学年

- 実施科目 保健体育科・保健分野
- 実施日 令和6年11月7日（木）
- 授業時数 2時間（本時2／2）
- 授業内容 がんについて正しく理解し、自他の健康や命の大切さ、生きることについて主体的に考える。
 - 1時間目 養護助教諭による保健分野授業…がんの正体、がんの種類、がん予防、がん治療等、がんについての基本的内容を学ぶ。（公財）がん研究振興財団発行パンフレット「がんを防ぐための新12か条」を活用した。
 - 2時間目（本時）外部講師による出前授業…講師の体験談（がんの告知から治療に至るまでの心情や治療による副作用、がん検診の大切さやがんと付き合いながら楽しく笑顔で過ごしていることについて）を聞き、自他の健康や命の大切についてペアで話し合い、考えを発表した。

高岡市立高岡西部中学校（中学校）第1学年

- 実施科目 特別活動・学級活動
- 実施日 令和6年11月7日（木）
- 授業時数 2時間（本時2／2）
- 授業内容 がんについて正しく理解し、心身ともに健康で安全な生活態度を形成する。
 - 1時間目 養護助教諭によるがん予防教育の実施（小児生活習慣病予防検診の事後指導も含む）がんを含む生活習慣病について知り、中でも「がん」についてクイズを交えながら理解を深めた。また、免疫力を高めるための生活習慣についてグループごとに調べ発表した。
 - 2時間目（本時）外部講師による出前授業…講師の体験談（がんの治療の内容、がんになったときの心情、人との出会い、つながり、あたたかさについての気付き）を聞き、自他の健康や命の大切についてペアやグループで話し合い、考えを共有し全体で発表した。

氷見市立西の杜学園（義務教育学校）第5学年・第6学年

- 実施科目 特別活動・学級活動
- 実施日 令和6年11月25日（月）
- 授業時数 1時間（本時1／1）
- 授業内容 外部講師の体験を踏まえた話を聞く。（がん検診受診早期発見・早期治療の大切さ、若いころから健康的な生活習慣を身に付けて予防すること）
講師によるピアノの演奏を鑑賞し、講師にとってピアノは生きる希望であり、そのおかげで治療に向きあい克服できたことを知り、夢や希望をもって生きる大切さを学んだ。

2 事業の達成度について

「がん教育出前授業・外部講師を活用したがん教育」の実施について

- ・外部講師派遣については、学校の実態、児童生徒の発達段階（小・中・高）を考慮して外部講師をコーディネートし、昨年度よりも8校増の20校に対して派遣を実施した。学校のニーズや授業のねらいを把握するため、外部講師が実施校へ出向き詳細な事前打合せを実施し、授業内容の希望を把握のうえ授業を実施することができた。

〈検証〉児童生徒の事前事後アンケート結果より

- ・健康的な生活習慣を身に付け、がん検診を受診することは、がん予防にもつながり大切なことであるという認識の広まりが見られた。（下記①、②）
- ・自分の周りの身近な人や、がん患者等病気を患い、社会の助けを必要とする人々を思いやる心の深まりが見られた。（下記③、④）

①「日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」の項目で「そう思う」と回答する割合

【 実施前 63.4% → 実施後 78.3% 】 ⇒ 「14.9」ポイント上昇 ↗

②「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」の項目で「そう思う」と回答する割合 【 実施前 57.0% → 実施後 73.7% 】 ⇒ 「16.7」ポイント上昇 ↗

③「がんと健康について、まず身近な家族から語ろうと思う」の項目で「そう思う」と回答する割合 【 実施前 49.9% → 実施後 69.9% 】 ⇒ 「20.0」ポイント上昇 ↗

④「がんになっている人も、過ごしやすい世の中にしたい」の項目で「そう思う」と回答する割合 【 実施前 66.9% → 実施後 77.8% 】 ⇒ 「10.9」ポイント上昇 ↗

〈検証〉生徒の感想より

- ・私は、がん教育出前授業を聞いて、若くてもがんになることを知ってびっくりしました。でも、生活バランスや食事バランスを正しくすることで予防できることを知ったので、私もバランスを正しくしたいと思いました。
- ・がんになってしまった人に、どうやって寄り添ってあげるかが大事だと思いました。ほかの病気にかかった人でも、助けを求めている人がいたら声をかけ、自分にできることをしようと思いました。
- ・家に帰ったら家族と話し合っ、がん検診を受けていなかったら受けてもらおうと思いました。

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- 令和6年度は昨年度の取組を踏まえ、出前授業実施校のさらなる増加に努めた。また、昨年度は行わなかった、外部講師による学校訪問型の事前打合せを実施した。学校の実態やニーズに応じた外部講師を派遣し、学校の授業担当者とならぬを共有しながら協同的に授業を行い、より教育的効果が高まるように努めた。
- 令和6年度は、外部講師の派遣校増加に伴い外部講師派遣事業の認知度も高まり、外部講師の派遣を希望する学校も増加した。今後の実施においては、講師のマンパワーに限りがあることから、メインの実施校に近隣の学校が参加したりオンラインで参加したりすることによる事業の拡大を検討するとともに、併せて、派遣可能な外部講師の開拓にも取り組みたい。
- 令和6年度、学校におけるがん教育担当者の資質向上のための研修（保健体育科や体育領域を担当する教諭や養護教諭等対象）を計画したものの、教員の他の研修との調整が必要となり、実施には至らなかった。令和7年度以降、指導者を対象とした研修会開催のため、研修時間の調整が課題である。